

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市環境審議会				
事務局 (担当課)		環境政策課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 0 (直通)				
開催日時		令和 3 年 5 月 1 4 日 (金) 1 4 時 0 0 分 ~ 1 6 時 0 0 分				
開催場所		オンライン開催 (現地会場：相模原市立環境情報センター 2 階 学習室)				
出席者	委員	1 7 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人 (別紙のとおり)				
	事務局	6 人 (環境共生部長、外 5 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
議 題		1 開会 2 議題 (1) 審議 第 3 次相模原市環境基本計画の進行管理に伴う年次報告書の作成について (2) 報告 (仮称)さがみはら脱炭素ロードマップについて 3 その他				

議 事 の 要 旨

(1) 審 議

第 3 次相模原市環境基本計画の進行管理に伴う年次報告書の作成について
上記について、事務局より説明を行った。

(出口委員) 資料 3 の 6 ページ 4 「望ましい環境像を実現するための 5 つの環境
目標」と前のページの「5 つの基本目標」は同じものを指しているのか。

(事務局) 同じものであり、環境基本計画に掲げる 5 つの基本目標を指している。

(出口委員) 同じものであれば、同じ表現で統一してほしい。また、2 ページの「産
業の情報」について、平成 26 年の情報なので新しい情報に更新するよう要望す
る。

(事務局) 可能な限り最新の情報を掲載させていただく。

(出口委員) 同じく 2 ページの「相模原市の位置図」の東京から 10 キロ圏、20 キ
ロ圏等の表示は、東京都庁が起点となっているのか。表示があると分かりやす
い。

(事務局) 確認の上、対応させていただく。

(北村委員) 5 ページの「地域循環共生都市さがみはら」のイラスト内の吹き出し
には「自然エネルギー」という言葉が入っているが、説明文には「自然エネル
ギー」という言葉が入っておらず、農林業の循環のみを言っているように読め
る。文章の方にも「自然エネルギー」の循環を入れてほしい。

(事務局) 「自然エネルギー」の文章への記載方法について検討させていただく。

(北村委員) 6 ページの 5 「SDGs との関連性」について、ゴール 6 「安全な水とト
イレを世界中に」の「水と衛生に関わる分野の管理・対策の強化」に注釈 01
が付してあり、注釈 01 は、「地球温暖化対策」となっているが、この点は地球
温暖化対策にかかわる部分なのか。

(事務局) 03 「水とみどり・生物多様性の保全・活用」に関連すると思われるので、
事務局にて確認する。

(北村委員) ゴール 13 「気候変動に具体的な対策を」に「集中豪雨等の気候変動影
響への適応」が記載されているが、熱中症による健康被害への対策も適応策と
して記載すべきではないか。

(事務局) 「集中豪雨等」に含まれているとの認識であるが、スペースとの関係か
ら記載可能か調整させていただく。

(岡部委員)8ページの「第3章 計画の進捗状況」「基本目標1 地球温暖化対策」について、二酸化炭素排出量という科学的に計測された客観的数値による指標が示されている一方で、「気候変動に伴う影響に備えている市民の割合」として、市民の「意識」という主観的な指標が同時に扱われているのはいかがが。

(事務局)二酸化炭素排出量は、緩和策について数値で進捗状況を確認するものである一方で、「気候変動に伴う影響に備えている市民の割合」は、適応策に関する指標と一緒に記載されている部分なので、記載方法を整理させていただく。

(川久保委員)6ページの5「SDGsとの関連性」について、見せ方をもう少し工夫した方が良い。SDGsの重要な視点として「統合性」があるが、この表だけだとバラバラと対策を講じているようにも見えてしまう。この表に加えて、相模原市の分野別の5つの基本目標を表側に、SDGsのゴール1~17を表頭にしたマトリクスなどを作成することで、統合的に取り組む姿勢をアピールされてはどうかと思う。

(事務局)5つの基本目標ごとの関連するSDGsゴールについては、8ページ「計画の進捗状況」に示させていただいている。

(川久保委員)8ページ以降に示していただいている部分を取りまとめて、6ページに頭出しした方が良い。なお、SDGsのゴール訳に関して、民間団体の訳したものを利用しているようであるが、政府が出している公式訳へ修正しておいた方が良い。

(大河内委員)6ページの5「SDGsとの関連性」について。ゴール6「安全な水とトイレを世界中に」の「水と衛生に関わる分野の管理・対策の強化」は、03「水とみどり」に関連すると思われるとのことであったが、「水とみどり」については水源林の話など、自然生態系の話で含まれていると思う。むしろ、下水道関連の話を含めるべきであり、02資源循環の話が含まれると考える。

また、7ページのPDCAサイクルの図について、集約した市民意見を、次年度すぐに計画に反映させるように見える。意見の反映は、中間見直しなり、次期計画策定時になることを明示すべき。

(事務局)事務局にて記載方法を検討させていただく。

(大河内委員)8ページの「計画の進捗状況」について、達成○、未達成 となっているが、前計画までは未達成が2段階に分かれて、 と×であった。今回の形式では、 ばかりが並ぶことにならないか。

(事務局) のみとする変更は大きな変更となるので、事務局で再度検討させていただく。

(出口委員) 8 ページの「計画の進捗状況」について、西暦と和暦の表記が混在しているため、併記するほうが良いのでは。

(事務局) 特に脱炭素の目標などは西暦表記が通常なので、西暦の併記など、表記の方法を検討させていただく

(出口委員) 脱炭素ロードマップに関連して、年次報告書の中の表現に、「低炭素」という表現が入っている。ここは、「脱炭素」という表現に変更していくべきではないか。

(事務局) 年次報告書は、第 3 次環境基本計画の進捗状況を示すもの。第 3 次環境基本計画の策定時には、まだ市は脱炭素を目指すことを宣言していなかったため、第 3 次計画の表現は「低炭素」となっており、「脱炭素」とはなっておらず、かつ、第 3 次環境基本計画の改定は先になる予定である。年次報告書の表記については、例えば、注意書きで「市は 2050 年の脱炭素を目指すこととしていません」と入れるなど、事務局として検討させていただく。

(北村委員) 10 ページ「基本目標 5 環境に配慮したライフスタイルの推進」の進捗状況について、指標が「市民アンケート」と「環境学習講座の参加人数」だけでは指標として弱いのではないか。

(南部委員) 8 ページの「基本目標 2 資源循環の推進」について、指標として、「総排出量」だけでなく、「1 人あたりの総排出量」も重要と考える。

(事務局) 指標については、令和 2 年 3 月に策定された第 3 次環境基本計画の策定にあたり、基本的には、計画期間である令和 9 年まで、この指標で進捗を管理していくことを決定して定めたものである。

(北村委員) 小中学校の環境教育について、何も反映されていないが、市長部局、教育委員会が一体となって環境教育を進めていくべきであり、連携しながら進めて欲しい。

(事務局) 第 3 次環境基本計画では、「環境に配慮したライフスタイルの促進」の一部を、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」に基づく「環境教育等行動計画」として位置づけることとした。この計画の進捗状況のフォローアップとして、今後、市長部局、教育委員会の施策も含めて管理していく予定である。

(田中会長) 進捗状況を確認する指標については、第 3 次相模原市環境基本計画で定められているので、変更が難しい部分があるため、基本的には次期の計画改定の際の参考とさせていただくことになるが、例えば、年次報告書に、参考数

値として併記していくことも考えられる。今後とも、委員からいただいた多くの意見をなるべく反映しながら、年次報告書を作成していただきたい。

(2) 報告

(仮称)さがみはら脱炭素ロードマップについて

上記の件について、事務局より説明を行った。

(一色委員) 脱炭素の推進の時代において、炭素の吸収源が注目されている中で、森林資源を有する相模原市として、ロードマップにおいて吸収源について言及されているのは重要な点だと考える。

(出口委員) 「カーボンニュートラル」という言葉については、注釈をつけた方が良いと考える。

(北村委員) 参考資料2の17ページ、「市の率先行動」の「市施設におけるRE100達成に向けた取組」について、電力会社の切り替えによる再エネ比率の高い電力の導入が紹介されているが、太陽光発電の設置はここには入らないのか。屋根貸しであれば、財政負担も生じないものとする。

(事務局) RE100の実現に向けた道筋には、様々な手段があり得るので、太陽光の屋根貸しなど、どの様な手段で実現していくのか、引き続き検討してまいりたい。

(大河内委員) 参考資料3の「循環型社会の形成」の「主な取組」の部分には、ここだけ、総焼却量 171,733 t という細かい数字が出ている。例えば基準年に対して何パーセント減といった表記の方が適しているのでは。焼却した場合は、サーマルリサイクルとしてその熱も利用していくことも重要である。

(事務局) 総焼却量の記載については、他の記載とのバランスも考えて調整させていただく。

(木村委員) 参考資料2の17ページ、「市の率先行動」の「全公用車の電動化」に、「代替可能な次世代自動車がない場合を除き」とあるが、何を想定しているのか。

(事務局) 現時点では消防車などは、代替できないと把握している。

(佐々木委員) 市民として、私たちの生活の中でやるべきこと、また、企業は何に取組んでいけば貢献できるのか、それを示して欲しい。

(古屋委員)資料2の20ページ「銀河連邦を構成する市町の再生可能エネルギーに関する連携協定」については、市外で発電された再生可能エネルギーを市内の市民や事業者が利用できることも想定されているのか。

(事務局)具体的な検討は今後となるが、本市は市域内のみでは再生可能エネルギーを賄えないので、市外からの再生可能エネルギーの導入も考えられる。

(永森委員)環境省としては、公共施設での太陽光パネルの導入、公用車のEVへの切替などについて、サポートメニューを用意している。

(守屋委員)環境教育については、学校現場でも取り組んでいる。相原小学校では森林を生かした充実した教育を実施している。また、鳥屋中学校では、地域の方々と連携して森林の枝打ち体験を実施し、自然保護活動を学んでいる。

(事務局)参考資料3の「環境意識の向上」において、環境教育は重要な要素として掲載している。

(出口委員)相模原市で水素エネルギーに関わっている事業者があれば、市としての独自の展開として、育成、支援をお願いしたい。

(事務局)水素エネルギーについては、昨年、市内に定置式水素ステーションを設置するなど、取組を推進している。また、市内に水素を活用した先進的な事業者もあると考えるので、その力も借りながら進めてまいりたい。

(木村委員)参考資料2の17ページ「いきいきとした森林の再生」について、津久井産材で小学校の机や椅子を作って、木の大切さを教えてほしい。

(鳶田委員)NHKでスマートホンや洗濯機など、モノを修理して使う事業が紹介されていた。サステナビリティに関わるものである。

(田中会長)市民や企業が脱炭素に対して具体的に何をしていたら良いかという、委員のご意見について、一人ひとりの行動が脱炭素の実現に重要な要素であることは間違いないので、ロードマップの策定にあたって留意いただきたい。

以上

環境審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	一色 正男	神奈川工科大学 創造工学部 教授		出席 (Zoom)
2	遠藤 治	麻布大学 生命・環境科学部 教授	副会長	欠席
3	大河内 由美子	麻布大学 生命・環境科学部 准教授 (相模原市廃棄物減量等推進審議会委員)		出席 (Zoom)
4	岡部 とし子	相模女子大学 栄養科学部 教授		出席 (Zoom)
5	川久保 俊	法政大学 デザイン工学部 教授		出席 (Zoom)
6	田中 充	法政大学 社会学部 教授 (相模原市地球温暖化対策推進会議会長)	会 長	出席 (Zoom)
7	南部 和香	青山学院大学 社会情報学部 准教授		出席 (Zoom)
8	吉永 龍起	北里大学 海洋生命科学部 准教授 (相模原市水とみどりの審議会委員)		出席 (Zoom)
9	北村 陽子	(特非)さがみはら環境活動ネットワーク 会議 理事		出席 (Zoom)
10	木村 郁子	さがみはら消費者の会 委員		出席 (現地)
11	佐藤 治男	津久井郡森林組合 代表理事組合長		欠席
12	小松 秀一	相模原の環境をよくする会 会長		出席 (現地)
13	竹田 幹夫	相模原市自治会連合会 副会長		出席 (Zoom)
14	根本 敏子	相模原商工会議所 副会頭		欠席
15	古屋 伸夫	(特非)かながわ環境カウンセラー協議会 相模原支部長		出席 (Zoom)
16	守屋 孝子	相模原市立小中学校校長会 委員		出席 (Zoom)
17	永森 一暢	(環境省)関東地方環境事務所 環境対策 課長		出席 (Zoom)

18	佐々木 亮一	中央区在住		出席 (現地)
19	鳶田 秀一	南区在住		出席 (Zoom)
20	出口 忠夫	南区在住		出席 (Zoom)